

校名：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

所在地：〒547-0032 大阪府大阪市平野区流町2-1-24 電話番号：06-6707-5800

記載日：平成28年5月20日

記載者：堀川理介

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は大阪市南東部・平野区のほぼ中央にあり、多数の神社・仏閣・名所旧跡を残しつつ江戸時代初期の町割を継承する旧平野郷地域の一端にある。創立以来、生徒の自主性や創造性の伸長、探究心の高揚を目指した教育を重視しており、生徒も活発で主体的かつ真摯に学校の諸活動に取り組んでいる。

これまで、例えば「総合的な学習の時間」等において外部人材や諸機関と連携した授業を継続実施するなど、新しい授業の研究開発を進めてきた。直近の10年間では、平成18年度より3年間、文部科学省「**学力向上拠点形成事業**」を受託し教育課程の開発に取り組んだほか、平成27年度より「**スーパーグローバルハイスクール(SGH)**」の指定を受け、大阪教育大学(以下、大教大)と協働しながら、学校をあげて「課題解決型学習や外国語によるコミュニケーション力向上プログラム等の実践研究」や「グローバル人材育成に関わる評価法の開発」を進めているところである。

さらに、平野地区に全ての校舎(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)が揃う利点をいかし、大教大の指導のもと、五校舎の連携・協働による「**異校種間連携教育**」の共同研究に取り組んでいる。

* 海外協定校 高雄師範大学附属高級中学、トリアムウドムスクサ高校(タイ)

* 海外交流校 St Michael's University School(カナダ)、Makati Science School(フィリピン)

* 大阪大学と連携協力に関する包括協定

貴校の卒業生の活躍状況について：

平成28年3月現在、本校の卒業生は約5300人で、全員が本校同窓会会員となっている。学校として追跡調査は行っていないが、同窓会や教職員からの情報を集積している。

卒業生は、政財界・法曹界・経済界・医療関係をはじめ、大学教員・研究者、公務員、企業経営者等、幅広い分野で、また国内外で、リーダー的役割を担って活躍している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査はしていないが、多くの教員の転勤後の状況は学校が把握している。創立以来の副校長、教員、養護教諭65名のうち、

○公立学校・教育委員会に異動した者が31名。そのうち、

- ・ 校長等管理職8名
- ・ 教育委員会5名(うち、大阪府教育センター長1名、同次長1名、同理科室長1名)
- ・ その他、全国または大阪府の各教科の学会・協会・研究会等で役員等に就き、リーダーとして活躍している者も多い。

○大学教員12名

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

(1) “いのち” を考える授業

「教科」及び「総合的な学習の時間」（以下、総合）において、専門家等の講義や調査研究、討論・ディベートを行ってきた。以下は実践例である。

- ①「受精卵遺伝子診断」「臓器移植」「代理母等の問題」等について、現場の医師等が講演。調査研究の後、ディベートを展開（「保健」12時間）
- ②防災・エネルギー問題について、福島・南相馬 NPO 団体関係者及び電力会社・原子力発電担当者が講演。調査研究の後、原子力発電についてディベート（「総合」5時間）
- ③インドネシアの社会課題について、現地で環境保全活動を展開する日本企業の担当者及び医療活動に関わった大学教授が講演。人々の生活、貧困、環境保全と企業の社会貢献について討論（「総合」5時間）
- ④高校生の難病患者の状況について、難病学生患者を支援する会代表が講演
※現在「課題研究」や学校設定科目「生命の倫理」で継続して実施しており、研究を深める生徒も多い。

(2) グローバル人材の育成（SGHの取組）

「多面的に”いのち”を考えるグローバルリーダーの育成」をテーマに「医療保健・防災減災・格差貧困に関する国際的社会課題についての課題研究」や「課題研究を深めるための国内外フィールドワーク」「英語による論理・表現力の育成」「学校設定科目（生命の倫理、公共と経済）の教育課程開発」等に取り組んでいる。

「課題研究」では、本校教員が、大教大や包括協定を結ぶ大阪大学の他、民間企業（サラヤ（株）等）、大阪市危機管理室等と連携しながら指導する一方、指導方法に関する研修を大教大教員を招聘して実施している。また「グローバル人材育成に関わる評価法開発」を大教大アセスメントグループと協働して進めている。

「英語による論理・表現力」の育成では、文科省助成事業として実施される「即興型英語ディベート」を大阪府立大学・中川智皓氏の協力を得て、年間を通して授業に導入、平成28年度は、将来の指導者としての資質を高めるため大教大の学生も参加している。さらに、年間数回、大教大の留学生を招聘し、事前・事後学習も行いながら、多文化理解、英語の論理・表現力の向上を目指す。



(3)アントレプレナーシップ教育、地域活性化プランの提案

- ①大阪府商工労働部と連携して「大阪府起業家教育活動推進事業」を府内で初めて実施。以後毎年、同部と連携して起業家を招聘し、授業を行っている。
- ②平野区役所政策推進課と連携して「平野の課題」を学習、生徒が活性化のプランを検討し発表している。発表会では平野区長から指導助言を得ている（「総合」8時間）。

(4) 地域と学校連携プロジェクト（現代的教育課題の学習会）

本校と平野五校園PTAや地域関係者が連携し、教育的課題に関する学習会を毎年実施。過去の講演演目は「学校と地域の連携のあり方」「地域・学校・家庭における暴力の根絶」「グローバル社会が求める人間像」等。

(5) 平野五校園の共同研究

平野地区の幼・小・中・高・特支が協働して、異校種間連携教育（交流・共同学習等）の実践研究に取り組み、成果を地域に発表している。



SGHの取組 グローバル人材の育成

本校のテーマ：「多面的に”いのち”を考えるグローバルリーダーの育成」



スーパーグローバルハイスクール

英語による論理・表現

- ①即興型英語ディベート 大阪府立大学
大教大学生の参加
⇒将来の指導者養成
- ②大教大留学生との討論
⇒高校生・留学生双方の多文化理解

課題解決型学習（課題研究）

- ①大学・企業等と連携した指導 大阪大学
関西学院大学
民間企業
- ②課題解決型学習の指導法研究
教員への研修（大教大教員）⇒公立校へ拡大
- ③課題解決力の評価法開発 ⇒大学入試改革へ

アントレプレナーシップ教育

- ①起業家による授業 大阪府商工労働部
- ②平野区活性化プランの提案授業
平野区役所

大阪教育大学との協働・連携

先導的教育研究・ 評価法の研究開発

- ①アクティブ・ラーニング
高校の取組を大学生へ
⇒将来の指導者養成
- ②学校設定科目
「公共と経済」
「生命の倫理」

学会・協議会
教科研究会

大阪教育大学

附属高等学校 平野校舎



附属
幼稚園

附属
平野小学校

附属
平野中学校

附属
特別支援
学校

平野地区五校園

地域との連携・成果の普及・還元

現代的教育課題 に関する研修

講演会等の開催
⇒学校・保護者・地域
の連携推進

平野五校園PTA
教育後援会等

異校種間連携教育 の研究開発

平野地区五校園の共同研究

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

◇平野地区では、幼稚園から高校までの15年間で“附属平野”で過ごす子どもも非常に多く、長年、地域からはあたたかく受け入れられ、公立学校と同様に密接な関係が維持されている。その意味でも、平野五校園が行う「共同研究」は地域から注目されており、発表会では毎年数百名以上の学校関係者等の参加を得ている。



◇高校では、大阪府や平野区、諸機関等と連携して前述の「いのち」を考える授業」「アントレプレナーシップ教育」「地域活性化プランの提案」等を実施しており、本校と各関係機関双方において今後の継続が期待されている。こういった地域の関係機関や民間企業等との連携は、SGHの取組である「大阪の社会課題に関わる課題研究(第1学年)」等をとおして一層拡大しており、地域との関係を今後さらに深めていく計画である。



◇一方、地域の公立学校等においては、SGHで取り組む「グローバル人材育成に関わるプログラムの実践」及び「評価方法の開発」の成果が期待されている。また、SGHの取組に対して連携協力を得ている大阪大学や関西学院大学等の大学については、大学入試改革に資する「課題解決力の評価方法」に関する研究について大教大と協働して取り組むこととなっており、本校も高校の立場から連携・協力する。

◇本校及び本校転出後の教員は、府内或いは全国の学会・研究会等において要職に就く者が多く、地域から教科教育を中心とした指導力・研究力の高さを期待されている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校が「現代的教育課題に対する先行研究」や「国の新しいプログラムの研究」に積極的に関わることは当然のことながら、地域の学校が活用できる実践を開発し発信すること、また、有為な学校教員を育成する機関として、教育実習のみならず、現職教員や教員志望の学生に対して、研修や情報を提供し、共同研究を行うことも重要な使命である。

本校がこれらの使命をもつことについては保護者・生徒から十分な理解を得ており、教員も研究に意欲的である。また、大教大から有益な指導・協力が得られていることに加えて、平野五校園の連携体制も既に構築されているなど、強固な研究体制が整えられている。さらに、自治体や周辺大学等との連携・協働が近年ますます拡大されていることも、大きな強みである。

現在、本校で進めているグローバル人材育成に関わる取組については前述したが、「課題解決力の育成と評価」「英語教育の改革」「次期学習指導要領における新教科」「大学入試改革」等の現代的教育課題と関連が深く、今後の研究成果を国・地域に具体的な形で還元していく予定である。

附属校は「これまでの先導的な研究開発の蓄積」と「研究経験豊富な教員」を有し、教育課題に対する実践的研究等に取り組む環境とノウハウが整っている。このことは公立校にはない、附属校ならではの特色である。今後、わが国の公教育の向上に貢献できるよう附属校の使命を果たしていく。